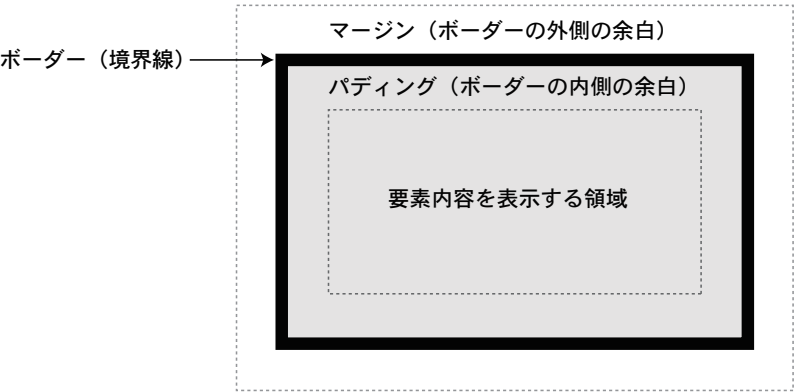


ボックス

CSSを使用すると、要素ごとに余白を調整したり、要素のまわりに境界線を引いたりすることができます。このような余白や境界線を含む表示上の構造は「ボックス」と呼ばれ、すべての要素でほぼ共通した次のような構造を持っています。



ボックスを設定するプロパティ

ボックスの各領域を設定するプロパティを一通り紹介していきます。余白や境界線を設定するプロパティは上下左右別にも用意されているため、その数が大変多くなっています。ここではそれらを種類別に表にまとめましたので、どの部分に対してどのようなプロパティが用意されているのかを覚えてください。

・マージン関連プロパティ

境界線よりも外側に確保可能な余白はマージンと呼ばれています。ボックスには背景を表示させることができますが、マージンの領域には背景は表示されず、常に透明となります。マージンを設定するために用意されているプロパティは右記の通りです。

プロパティ名	設定対象
margin-top	上のマージン
margin-bottom	下のマージン
margin-left	左のマージン
margin-right	右のマージン
margin	上下左右のマージン (値は 1〜4 個指定可能)

値には、単位付きの数値かキーワード「auto (自動設定)」が指定できます。ボックスの幅を固定した状態で、左右のマージンを「auto」にすると、そのボックスはセンタリングされますのマージンが同じ距離となるため)。

また、異なるボックスのマージンが上下に隣接している場合、それらはプラスされるのではなく「値の大きい方だけが有効となる」というルールがある点に注意してください。

・パディング関連プロパティ

境界線よりも内側に確保可能な余白はパディングと呼ばれています。パディングの領域には背景が表示されます (CSSで表示されないように変更することも可能です)。指定できる値はマージンと同様です。パディングを設定するために用意されているプロパティは次の通りです。

プロパティ名	設定対象
padding-top	上のパディング
padding-bottom	下のパディング
padding-left	左のパディング
padding-right	右のパディング
padding	上下左右のパディング (値は 1〜4 個指定可能)

値を1〜4個指定すると？

marginプロパティは、値を半角スペースで区切って複数指定することができます。値が1つだけ指定された場合、その値は上下左右に適用されます。値が2つ指定された場合は、1つめが上下、2つめが左右に適用されます。値が3つ指定された場合は、1つめが上、2つめが左右、3つめが下に適用されます。値が4つ指定された場合は、上から時計回りに、右、下、左と順に適用されます。